

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団	
施 設 名	京都コンサートホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	23,757	(千円)
	公 演 事 業	14,258 (千円)
	人 材 養 成 事 業	5,414 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	4,085 (千円)

1. 事業概要

(1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	KCH 的クラシック音楽の スズメ Vol. 4「クラシッ ク×ジャズ！」	2023年5月13日	[出演者] 小曾根真(ピアノ) [プログラム] ワークショップ&ス ペシャルライブ	目標値	400
		アンサンブルホールムラタ		実績値	487
2	京都北山マチネ・シリー ズ(全4回)	2023年6月28日 2023年8月22日 2023年10月18日 2023年12月19日	[出演者] Vol. 13 徳永真一郎(ギタ ー)、Vol. 14 吉見友貴(ピアノ)、 Vol. 15 田原綾子(ヴィオラ)&實川 風(ピアノ)、Vol. 16 藤井虹太郎(ト ランペット)&天勝悠太(ピアノ) [プログラム] Vol. 13 J. S. バッハ: 前奏曲、フーガとアレグロ BWV998 ほか、Vol. 14 ベートーヴェン: ピア ノ・ソナタ第31番 変イ長調 作品 110 ほか、Vol. 15 フォーレ: 夢のあ とに ほか、Vol. 16 オネゲル: イン トラダ ほか	目標値	1,400
		アンサンブルホールムラタ		実績値	1,543
3	第27回 京都の秋 音楽祭 開会記念コンサート	2023年9月10日	[出演者] 広上淳一(指揮・京都コ ンサートホール館長)、津田裕也(ピ アノ)、京都市交響楽団 [プログラム] モーツァルト: ピア ノ協奏曲第23番 イ長調 K. 488、マ ーラー: 交響曲第5番 嬰ハ短調	目標値	1,810
		大ホール		実績値	1,690
4	プーランク没後60年パス カル・ロジェ×ウインド クインテット・ソノリテ プーランクの横顔	2023年10月21日	[出演者] パスカル・ロジェ(ピア ノ)、ウインドクインテット・ソノリ テ [フルート: 上野博昭(京都市交 響楽団首席奏者)、オーボエ: 須貝絵 里、クラリネット: 吉田悠人、ホル ン: 深江和音]、ファゴット: 浜脇穂 充 [プログラム] オール・プーランク・ プログラム	目標値	400
		アンサンブルホールムラタ		実績値	348
5	京都コンサートホール× 京都市交響楽団プロジェ クト Vol. 4 ワーグナー生 誕210年×没後140年『ニ ーベルングの指環』より (ハイライト・沼尻編)	2023年11月18日	[出演者] 沼尻竜典(指揮)、京都市 交響楽団、青山貴(バリトン)、ステ ファニー・ミュター(ソプラノ) [プログラム] オール・ワーグナー・ プログラム	目標値	1,100
		大ホール		実績値	1,031
6	2つのショパン国際コンク ール優勝ピアニストによ る The Real Chopin × 18 世紀オーケストラ 京都公 演	2024年3月9日	[出演者] 18世紀オーケストラ、ユ リアンナ・アヴデーエワ(ピアノ)、 トマシュ・リッテル(ピアノ) [プログラム] ショパン: ピアノ協 奏曲第2番 へ短調 作品21、ピアノ 協奏曲第1番 ホ短調 作品11 ほか	目標値	1,200
		大ホール		実績値	1,192

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	京都市ジュニアオーケストラ ミュージック・サマー・コンサート&第19回京都市ジュニアオーケストラコンサート	2023年8月13日 2024年1月28日	ミュージック・サマー・コンサート [出演者] 岡本陸(指揮)、京都市ジュニアオーケストラ [プログラム] ボロディン: オペラ《イーゴリ公》より〈だったん人の踊り〉ほか 第19回コンサート [出演者] 園田隆一郎(指揮)、京都市ジュニアオーケストラ [プログラム] チャイコフスキー: 交響曲第5番 ホ短調 作品64 ほか	目標値	入場者 1,450・ 参加者数 120
		京都市右京ふれあい文化会館 ホール 大ホール		実績値	入場者 1,559・ 参加者数 107
2	第12回関西の音楽大学オーケストラ・フェスティバル IN 京都コンサートホール	2023年9月16日	[出演者] 下野竜也(指揮)、大阪音楽大学・大阪教育大学・大阪芸術大学・京都市立芸術大学・神戸女学院大学・相愛大学・同志社女子大学・武庫川女子大学 [プログラム] ベートーヴェン: 交響曲第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」ほか	目標値	入場者数 1,000・ 参加者数 100
		大ホール		実績値	入場者数 1,098・ 参加者数 管弦楽団 107、合唱団 113
3	京都コンサートホール第2期登録アーティスト「Join us(ジョイ・ナス)！～キョウト・ミュージック・アウトリーチ～最終年度リサイタル」(2回)	2024年3月2日 2024年3月3日	[出演者] Vol.1 鎌田邦裕(フルート)、佐藤亜友美(ピアノ)、Vol.2 福田彩乃(サクソフォーン)、曾我部智花(ピアノ) [プログラム] Vol.1 ドビュッシー: 牧神の午後への前奏曲 ほか、Vol.2 真島俊夫: シーガル ほか	目標値	入場者数 800・参 加者数4
		アンサンブルホールムラカ		実績値	入場者数 572・参 加者数4

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	Join us (ジョイ・ナス)！～キョウト・ミュージック・アウトリーチ～	通年	[出演者] 京都コンサートホール第2期登録アーティスト 鎌田邦裕 (フルート (ピアニスト: 佐藤亜友美))、福田彩乃 (サクソフォーン (ピアニスト: 曾我部智花))	目標値	入場者数 2,000・ 参加者数 10
		市内の小中学校ほか		実績値	入場者数 約 1,100・ 参加者数 4
2	Kyoto Music Caravan 2023	通年	[出演者]京都市立芸術大学在学学生、卒業生、関係者(教員) ほか	目標値	入場者数 1,000・ 参加者数 100
		京都市立芸術大学ほか		実績値	入場者数 約 3,000・ 参加者数 約300
3	幼児のためのポジティブオルガン体験講座	2023年6月7日 2023年6月8日	[出演者] 久保田真矢 (オルガン奏者・講師)、京都コンサートホール事業企画課 [プログラム] It's a small world、おもちゃのチャチャチャ ほか	目標値	入場者数 120・参 加者数7
		アンサンブルホールムラタ		実績値	入場者数 67・参 加者数8
4	音楽でつながる♪リレーコンサート	2024年3月31日	[出演者] 一般公募で決定した8組	目標値	入場者数 500・参 加者数30
		アンサンブルホールムラタ		実績値	入場者数 357・参 加者数52

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>2023年度、京都コンサートホールのミッションとして、「1. 京都市交響楽団の活動拠点としての強みを活かした公演づくり」「2. クラシック音楽の殿堂としての機能を高める公演づくり」「3. あらゆる人が音楽芸術を享受できる機会づくり」「4. 文化芸術活性化インフラの中心的役割としての機能の発揮」の4つを掲げた。これらのミッションに基づき5つのビジョンを設定し、そのうち3つのビジョンに紐づく形で5つの公演事業、3つの人材養成事業、4つの普及啓発事業を計画した（残り2つのビジョンは館運営に関するものである）。</p> <p>1つ目のビジョン「京都市交響楽団の活動拠点として、京都市民のみならず日本全国から期待され続ける公共ホールになる」には、全ての公演事業、人材養成事業、普及啓発事業を紐づけた。2つ目のビジョン「クラシック音楽を活用した地域活性化や賑わい創出等、幅広い視野を持つ公共ホールになる」については、公演事業1, 2, 3, 4、全ての人材養成事業、普及啓発事業2, 4を紐づけた。3つ目のビジョン「将来的に文化芸術面で活躍できる人材を育む公共ホールになる」には、全ての人材養成事業、及び普及啓発事業1を紐づけた。</p> <p>また、2023年度は特に、「京都」というまちが持つ特性やニーズに特化した事業（普及啓発事業2）を企画立案した。この事業は、2023年に行われた文化庁の京都移転や京都市立芸術大学の新キャンパス移転を契機に開催したもので、あらゆる人々に京都の文化芸術を発信するために企画した。</p> <p>上記にあげた事業は、すべてミッション・ビジョン・地域の特性等に基づいて企画し、適切に組み立てることができた。また、すべての事業において当初の予定通りに円滑に進めることができ、問題なく事業を終えることができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>【文化的意義について】助成金に採択された事業に関しては、2023年1月26日に開催した主催事業記者発表会の中で紹介し、年間のテーマを「京都・きょうと・KYOTO」と掲げ、大人や子ども、海外からのインバウンドも京都コンサートホールでクラシック音楽を楽しめる事業であることを記者に対して説明した。その結果、4社（音楽の友3月号、関西音楽新聞3月号、毎日新聞3月8日夕刊、京都新聞3月21日朝刊）で記事化され、いずれにおいても好意的に紹介された。また、各事業においても様々なメディアで取り上げられた。</p> <p>【社会的意義について】いずれの事業においても、「地域の文化芸術のハブ的存在」として機能し、貢献できた。特に、人材養成事業2では、関西の音大・芸大8校を一つにまとめ上げ、コロナ禍以降実現できていなかったベートーヴェンの第九をプログラムとして取り上げることができた。また、普及啓発事業2では、京都市内11区の観光地や名所で京都芸大ゆかりの音楽家によるコンサートを企画し、国内外の人々に向けて京都や京都芸大の魅力発信に貢献した。さらには本事業の最終公演において、京都市内の5つのクラシック音楽教育機関を公共ホールとして一つにまとめ、合同演奏会を行ったことは高い社会的意義が認められる内容であったと自負している。聴衆アンケートにおいても回答した9割以上の聴衆が「本公演を鑑賞し、京都市立芸術大学新キャンパス移転や文化庁移転に期待が高まった」と答えている。</p> <p>【経済的意義について】採択事業では、チケット代の設定に配慮を行い、様々な層の聴衆が来場できるように心がけた。また、普及啓発事業1や2では、ホールの外に出て生演奏を届けることにより、普段さまざまな問題や課題でホールに来場できない人々にも平等に文化芸術を享受する機会を創出した。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業】

目標1：公演アンケートを実施し、鑑賞者の満足度（「大変良かった」・「良かった」）の回答率について、90%以上を目指す。⇒達成した。6事業9公演で「大変良かった」・「良かった」の回答率が平均96%。

目標2：公演アンケートでホール企画の独自性の有無を問う項目を設置し、「ある」の回答率について、50%以上を目指す。⇒達成した。6事業9公演でアンケートを実施し、「ある」の回答率が74%。

目標3：集客率について、大ホール平均74%、小ホール平均75%以上を目指す。⇒小ホール公演のみ達成した。6公演の平均集客率は76%。大ホール公演は達成できなかった。3公演の平均集客率は71%。

目標4：U-30券あるいは学生券を設定している事業について、各公演20枚以上の販売枚数を目指す。

⇒1公演を除き、達成することができた

事業番号1では22歳以下のチケットが26枚、事業番号3では学生券が26枚、事業番号4では30歳以下のチケットが52枚、事業番号5では学生券が37枚売れた。事業番号6では学生券が11枚という結果になったが、これはチケットの単価が他公演に比べて高価であることが原因であると考えられる。

【人材養成事業】

目標1：事業終了後、参加者アンケートを実施し「次回も事業に参加したい」という項目について、80%以上の回答率を目指す。

⇒達成できなかった。2事業（人材養成事業1及び2）の平均回答率は74%だった。この理由について、いずれの事業も年齢制限があるため、上限に達した参加者の回答が影響したと思われる。なお人材養成事業3については、2023年度で事業が終了するため、アンケートの項目に入れなかった。

目標2-1：参加者アンケートを実施し、半数以上が「以降のキャリア形成に良い影響を与えた」と回答することを目指す。⇒「2年間、登録アーティストとしてアウトリーチ活動に取り組んで良かったか」という質問に変更し、登録アーティスト2名にアンケートを実施した。1名が「よかった」、1名が「普通」と回答した。

目標2-2：目標1の定量的データに加え、具体的にどのような影響を与えたか。

⇒自由記述によるアンケートを実施。演奏家に対し、事業が良い影響を与えたことがわかった。

目標3：公演終了後、公演アンケートを実施し、「大変良かった」・「良かった」の回答率について、75%以上の回答率を目指す。

⇒達成した。3事業4公演の平均回答率は91%だった。

【普及啓発事業】

目標1：公演アンケートを実施し、「大変良かった」・「良かった」の回答率について、80%以上を目指す。

⇒達成した。4事業の平均回答率は96%だった。

目標2：参加者アンケートを実施し、「事業に参加してよかった」が85%以上を目指す。

⇒達成した。4事業の平均回答率は100%だった。

目標3：普及啓発事業2について記者発表を実施し、5社以上の媒体で記事として取り上げられる。

⇒達成した。計7社（京都新聞3月30日朝刊、ぶらあぼONLINE3月31日、中外日報4月5日、文化時報4月14日、関西音楽新聞5月号、朝日新聞5月10日朝刊、日本経済新聞電子版5月20日）で取り上げられた。

目標4：普及啓発事業2で公演アンケートを実施し、コンサートを聴いて「京都市立芸術大学新キャンパス移転及び文化庁京都移転について期待が高まったか」という項目を設置し、60%以上の回答率を目指す。⇒達成した。10公演の平均回答率は88%だった（仁和寺及び月桂冠大倉記念館でのコンサートでのアンケート実施はなし）。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演・人材養成・普及啓発事業すべてにおいて、前年度（2023年1月26日）に当ホール主催事業のラインアップ発表会でマスコミに対して事業内容の紹介を行った。その上で、個々の事業に関する事業計画を記載する。

【公演事業】事業番号6を除き、およそ1年前から企画立案を始めた。事業番号6については、およそ2年前から演奏団体と交渉を始め、招聘に向けた準備を進めてきた。当初の予定通り、チケット発売を公演日の4~5ヶ月前に設定し、チケット発売日の2ヶ月前からチラシ制作や広報の準備を始めた。チケット発売後は、チラシやコンサートガイド等の紙媒体に加え、SNS等のネット媒体を駆使して、チケットの販促に努めた。

【人材養成事業】人材養成事業については、全事業において継続的な準備が必要であるため、前年度（2022年度）から綿密な計画を立てて事業運営に努めてきた。チラシ制作やチケット発売については前述の公演事業と同様に進め、広報に関しては事業参加者にも積極的に協力してもらい、細かく広報計画を立てて進めた。

【普及啓発事業】事業番号1については、京都市の協力を得て、2023年4月よりアウトリーチの受け入れ先とスケジュールの調整を行った。事業番号2については多方面での調整が必要となり、非常に綿密な運営計画を立てて予定通り進めることができた。事業番号3についても市教育委員会やオムロン株式会社の協力を得て、2023年度は広報面に力を入れて運営を行った。また、オムロン株式会社のホームページに当事業に関する記事と取材動画が掲載された。<https://www.omron.com/jp/ja/edge-link/news/684.html>

全事業において適切な事業期間で、当初の計画通りに運営することができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演事業（6事業）】

支出について、決算では51,371,681円であり、当初予算（50,588,000円）よりも783,681円経費追加となった。主に、公演1・3・6で出演費が増額したことが要因である。収入については（自己負担金除く）、決算では30,080,650円であり、おおよそ当初予算（30,296,000円）どおりであった。

【人材養成事業（3事業）】

支出について、決算では11,659,317円であり、当初予算（12,887,000円）よりも1,227,683円経費削減して事業運営ができた。また収入について（自己負担金除く）、決算では4,537,900円であり、当初予算（3,760,000円）よりも777,900円プラスとなった。主に、人材1で入場料収入が増額し、また外部の助成金を追加で獲得できたことが要因である。

【普及啓発事業（4事業）】

支出について、決算では9,354,381円であり、当初予算（10,155,000円）よりも800,619円経費削減して事業運営ができた。また収入について（自己負担金除く）、決算では1,394,500円であり、当初予算（195,000円）よりも1,199,500円プラスとなった。主に、普及2で入場料収入が増額したこと、普及1・2で外部の助成金を追加で獲得できたことが要因である。

【総評】

いずれの事業においても、経費削減・資金調達に努めた結果、当初の計画よりも収支を改善することができた。特に人材養成事業・普及啓発事業では、経費を削減しつつも、趣旨・目的のレベルを落とすことなく事業を実施することができた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

既述のように、2023年1月26日に2023年度の当ホール主催事業に関する記者発表会を行い、次のマスメディアに4社に取り上げられ記事化された。毎日新聞3月8日夕刊、京都新聞3月21日朝刊、音楽の友3月号、関西音楽新聞3月号。

また、以下の事業は個々にマスメディアに記事や番組として取り上げられた。

▶公演事業2「京都北山マチネ・シリーズ Vol. 16（藤井虹太郎）」・・・朝日新聞11月22日朝刊、京都新聞12月5日朝刊

▶公演事業4「プーランクの横顔」・・・ぶらあぼ10月号、モーストリー・クラシック11月号

▶公演事業5「京都コンサートホール×京都市交響楽団プロジェクト Vol. 5」・・・毎日新聞11月15日朝刊、ぶらあぼ11月号。なお本事業については「音楽の友2024年3月号」で公演評が掲載され「(略) 沼尻竜典が、その偉業の大部分をともにした京都市交響楽団とワーグナー・プログラムを上演した。(略) この日イゾルデやブリュンヒルデを歌ったソプラノのミューターや、ヴォータンを歌った青山貴も、沼尻に見いだされた人たちだけに呼吸もぴったり。聴きごたえのある演奏会だった。」と評された。

▶公演事業6「18世紀オーケストラ 京都公演」・・・毎日新聞3月5日朝刊。なお、「エンタメ特化型情報メディア スパイス」にウェブ記事として公演評が取り上げられ(2024年3月12日)、「(略) 豊かな倍音で聴かせる唯一無二のフォルテピアノのサウンドは、その為に鍛えられたピアニストならではの熟練の技が成せるものだと承知していただけない、アヴデーエワが自在にプレイエルを演奏する姿を見て驚いた。彼女は既にフォルテピアノの奏法を手の内に入れていたのだ。」と絶賛された。

▶人材養成事業1「京都市ジュニアオーケストラコンサート」・・・京都新聞1月18日朝刊。

▶人材養成事業3「京都コンサートホール第2期登録アーティスト 最終年度リサイタル」・・・京都新聞2月20日夕刊。

▶普及啓発事業2「Kyoto Music Caravan 2023」・・・市民しんぶん：全市版および各区版(全10回)、京都新聞(3月30日朝刊、8月9日朝刊)、ぶらあぼONLINEクラシック音楽情報ポータル(3月31日、2024年4月26日掲載)、中外日報4月5日、文化時報4月14日、朝日新聞5月10日京都版朝刊、日本経済新聞電子版5月20日、関西音楽新聞(5月号、2024年5月号掲載予定)、読売新聞(9月7日京都版朝刊、2024年5月掲載予定)、KBS京都(テレビ放送)「きょうとDays」(4月6日)、FM KYOTO「GOOD & NEW KYOTO」(4月20日)、KBSラジオ(ラジオ放送)「竹内弘一のこういっちゃんなんですが」(8月4日)、αステーション(ラジオ放送)「MORNING SPRITE」(9月7日)。本事業については、事業単体のSNSアカウントを開設し、各公演のダイジェスト動画の投稿等も行い、視聴者からの数多くのリアクションがあった。

以上、個々の事業において、地域の文化芸術拠点としての機能を最大限に発揮できていたものとする。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

これまでの項目でも述べた通り、2023年度の採択事業について、様々なメディアに公演に関する記事や批評が掲載されたり、ラジオやテレビ番組で取り上げられたりする等、外部に対して当ホールの存在を広く周知した。

【聴衆アンケート】公演事業、人材養成事業、普及啓発事業から1事業ずつ、聴衆アンケートから寄せられた意見の一部抜粋を掲載する。いずれの感想からも、地域の実演芸術等の振興や地域の文化芸術の発展につながったと認められる感想が記載されていた。

■公演事業（事業番号5・京都コンサートホール×京都市交響楽団プロジェクトVol.4）

・今日の演奏会が素晴らしいものになるために何年も前からマエストロはじめ皆様の熱意・情熱・努力・奮闘に感謝と敬意をこめて本当にありがとうございました。世界を感じる演奏会でした。

・ホールのHPに公演に関するインタビューや解説、YouTubeチャンネルがあり興味深く拝見しました。こんなサイトがあると発見できてラッキーでした。ありがとうございました。

・事前のワーグナーセミナーにも参加することができ、私のような初心者にも知識や指標を授けていただき、岡田先生やスタッフの方々には感謝でいっぱいです。素晴らしい演奏と企画をありがとうございました。

・びわ湖ホールでのワーグナーシリーズが完遂し、ロスになっていたのを救っていただいた思いです。素晴らしかったです。

・沼尻編ワーグナーを指揮者沼尻氏と京都市交響楽団で聴けてよかった。

・びわ湖ホールでのオペラの感動を思い出させる素晴らしい演奏をありがとうございました。

・ワーグナーを満喫できる素晴らしい演奏でした。この時代に生まれて、この演奏会に来ることができて良かったです。幸せでした。

・一期一会の演奏で、東京から来た甲斐がありました。

■人材養成事業（事業番号1・第19回京都市ジュニアオーケストラコンサート）

・ジュニアオーケストラの成長が見える素晴らしい演奏でした。毎回聴きに行っていますが今回は最高でした。

・若い人たちのエネルギーと情熱に感動しました。元気が出ました。涙が出ました。

・ジュニアオーケストラとは思えないほど、重量感のある、素晴らしい演奏でした。彼らがプロになったらどのような成長をし、さらなる素晴らしい演奏家になるのか、とても楽しみにになりました。

・若いパワーに満ち溢れ、こちらも活力をいただきました。ずっと活動を続けてほしいです。素晴らしい教育環境ですね。

・京都にいま以上に素晴らしい音楽をもっと届けてください。京都市が音楽の都でありますように。

■普及啓発事業（事業番号2・Kyoto Music Caravan 2023・スペシャルコンサート）

・京都市内の様々な団体や学校で音楽を学ぶ子どもや若者たちが集まり、共演するという貴重な機会で、素晴らしい公演でした。企画を実現してくださりありがとうございました。また5年後、10年後などの節目の年に同じような演奏会が開催されるといいなと思いました。

・新しいホールで大勢の京都の方々の演奏を聞くことができ感動しました。京都に世界へ向けて発信できる拠点ができたような気がします。

・素晴らしかったです。京都の可能性が広がったように思いました。京都は音楽を学び、学んだことを広げる次の道筋がしっかり作られているなと感じました。

【SNS アカウト】当ホールでは、X、Facebook、Instagram、YouTubeの公式アカウントをそれぞれ持っており、一年でXは492人、Facebookは261人、Instagramは373人、YouTubeは162人のフォロワー・チャンネル登録者数が増加した。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当ホールの主催事業は、事業企画課 8 名（プロデューサー兼事業企画課長 1 名、制作スタッフ 4 名、広報スタッフ 1 名、チケット担当 1 名、経理担当 1 名）で企画立案・事業運営を行っている。全体の企画立案をプロデューサーが行い、できあがった素案を事業企画課内で協議し、細部の調整を行う。

事業企画課で企画立案した事業は、①京都コンサートホール館長（ミュージックアドバイザー）、②専務～事務局長～総務課ライン、③外部メンバーで組織される「京都コンサートホール運営協議会」、④理事会、の 4 つの段階を経て決定する。①では主に芸術面における助言、②では主に収支予算面、③では主に企画内容、④では主にロームシアターと京都コンサートホール両館における事業バランスに関する助言を行う。

事業企画を行う際は、当館の使命や役割、目標、地域の特性等といった項目から、その年に相応しいテーマを定め、個々の事業計画に入る。特に、当館は公共ホールであるため「どのような事業を実施すれば市民に還元することができるか」「事業を実施することで組織活動が持続的に発展するためにはどのようにすれば良いか」という視点で事業企画を立てる。

助成対象となった後、当初の計画どおりに事業運営をすることができるか、予算どおりに事業費を調整することができるか、じゅうぶんに気をつけながら事業運営を行う。

事業運営の際には、チケット販促のために様々な広報内容を計画し、実行する。

必ず聴衆アンケートを取り、紙媒体と web と両方で実施することにより、回答数の増加を目指している。アンケートを行ったあとは、公演から 1 ヶ月以内を目処に集計を行い、課内のみならずホール全体で結果の回覧を行い、次回に活かすべく分析を行う。

事業終了後は、各事業内容の自己評価を行うために「個別事業評価シート」を各事業担当が記載し、課内で見返す。評価シートの項目は、次の通りである。

- ・ 入場者数・アンケート回収率
- ・ 広報宣伝内容（チラシ、ポスター、新聞雑誌掲載記事、SNS 投稿記事等）
- ・ 総合評価・課題（公演当日まで、公演当日）
- ・ 企画内容について（人選、プログラム、集客バランス、今後の発展性等）

以上のように、当ホールでは事業実施のために、PDCA サイクルを効果的に実施しており、次回の事業運営に向けた改善や取り組みを積極的に行っている。